

## 可撤性補綴学

《担当者名》 歯学部教授 / 豊下 祥史 toyosita@ 歯学部准教授 / 川西 克弥 kawanisi@  
歯学部助教 / 高田 紗理 srtakada@

## 【概要】

歯周病や齲蝕などによる歯の喪失により失われた形態と機能を補綴装置によっていかに回復するかを理解し、補綴治療全体の流れと技工操作との関連を理解する。さらに、無歯顎補綴および欠損補綴に関しては、その治療的あるいは予防的な意義と有床義歯の在り方を理解し、診査・診断、製作・装着および装着後の監視・処置などの臨床面における診療補助および患者指導を行うための学理を学ぶ。

## 【学修目標】

無歯顎補綴治療および欠損補綴治療の目的と意義を説明できる。  
顎口腔系機能（咀嚼・嚥下・発音）について説明できる。  
正常有歯顎者の下顎運動、下顎位について説明できる。  
各種補綴装置について、その適応や構造について説明できる。  
歯科補綴処置における感染予防対策や器材の滅菌・消毒について説明できる。  
歯科補綴処置における歯科衛生士の役割・歯科技工との関連、患者に対する指導方法などについて説明できる。  
全部床義歯の構成要素の名称、目的を説明できる。  
部分床義歯の分類法、構成要素の名称とそれぞれの種類および目的を説明できる。  
部分床義歯および全部床義歯の製作にあたっての臨床ステップを、技工操作との関連とともに説明できる。  
部分床義歯および全部床義歯の製作前ならびに装着後の患者指導方法、調整方法、経過観察項目や術後管理について説明できる。  
即時義歯、治療用義歯、移行義歯などの目的別によって名称が異なる義歯について、その目的と製作術式の違いを説明できる。  
オーバーデンチャー、インプラント義歯、顎顔面補綴装置などの特殊な義歯について、その概要を説明できる。  
咬合接触状態の検査法、下顎運動検査法、咬合音検査法を説明できる。  
ゴシックアーチ描記法、チェックバイト法、パントグラフ法、電気的下顎運動検査法などについて、それぞれの目的や使用する器材などについて説明できる。  
要支援、要介護高齢者などに対する訪問口腔衛生指導事業の概要について、とくに補綴処置に関連する事項を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯科補綴の基礎 ・歯列・咬合 ・下顎位・下顎運動	・補綴学的理想咬合について学修する。 各種下顎位および下顎運動について学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴（最新 歯科衛生士教本）」P7 - P22	川西 克弥
2	補綴関連検査 ・フェイスボウトランスファー ・ゴシックアーチ描記装置とチェックバイト ・パントグラフ ・咬合検査	・フェイスボウトランスファー、ゴシックアーチとチェックバイト、咬合検査機器について学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴（最新 歯科衛生士教本）」P66 - P73、P144 - P146	川西 克弥
3	補綴方法の種類 ・全部床義歯 ・部分床義歯 補綴治療における歯科衛生士の役割 ・補綴処置を必要とする患者 ・補綴治療と共同動作	・補綴装置の分類について学修する。 部分床義歯とブリッジを比較して、それぞれの特徴を理解する。 補綴処置を必要とする患者の特徴を理解する。 補綴治療における歯科衛生士の役割について学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴（最新 歯科衛生士教本）」P4 - 6、P46 - P56、P194 - P195	川西 克弥
4	全部床義歯の分類および構成要素	・全部床義歯の分類法ならびにその構成要素の名称、目的を学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴（最新 歯科衛生士教本）」P52 - P54	川西 克弥
5	全部床義歯製作のための臨床ステップ	・全部床義歯製作にあたっての臨床ステップを理解する。	高田 紗理

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	・全部床義歯製作時の患者指導	全部床義歯製作前ならびに装着後の患者指導方法について理解する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 8 6 - P 1 0 0、P 1 6 1 - P 1 6 6、P 1 8 1 - P 1 8 6	
6	全部床義歯製作のための技工ステップ ・全部床義歯装着後の術後管理	・全部床義歯製作にあたっての技工ステップを理解する。 全部床義歯装着後の調整方法、経過観察項目や術後管理(補修、リライン)について理解する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 1 0 3、P 1 4 1 - P 1 4 2、P 1 6 1 - P 1 6 6	高田 紗理
7	部分床義歯補綴 ・部分床義歯補綴の概要 ・部分床義歯の分類 ・部分床義歯の構成要素	・部分床義歯の各種分類法を理解し、さらにその構成要素の名称、種類、目的を学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 5 4 - P 5 6	豊下 祥史
8	部分床義歯製作のための臨床ステップ ・部分床義歯製作時の患者指導	・部分床義歯製作にあたっての臨床ステップを理解する。 部分床義歯製作前ならびに装着後の患者指導方法を学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 8 6 - P 9 1、P 1 0 1 - P 1 0 3、P 1 6 7 - P 1 7 4、P 1 8 7 - P 1 9 0	豊下 祥史
9	部分床義歯製作のための技工ステップ ・部分床義歯装着後の術後管理	・部分床義歯製作にあたっての技工ステップを、臨床ステップとの関連とともに理解する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 1 0 3、P 1 3 7 - P 1 3 9、P 1 6 7 - P 1 7 4	豊下 祥史
10	特別な名称をもつ義歯 在宅訪問指導	・即時義歯、暫間義歯、治療用義歯などの目的により名称の異なる義歯について、その目的と製作術式の違いを理解する。また、オーバーデンチャー、インプラント義歯、顎顔面補綴装置などの特殊な義歯について学修する。 ・要支援や要介護高齢者などに対する訪問口腔衛生指導事業の概要について、とくに補綴処置に関連する事項を学修する。 ・「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(最新 歯科衛生士教本)」P 6 2	川西 克弥

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験 100%

## 【教科書】

赤川安正 他 編 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版(最新歯科衛生士教本)」 医歯薬出版 2020年

## 【参考書】

佐藤 亨 他 著 「新・歯科衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」 クインテッセンス出版 2012年

## 【学修の準備】

講義前は指定した教科書の該当ページを事前に読んで予習しておくこと。(40分)

講義後は教科書やプリントなどを活用して復習し、理解できていない項目は講義担当者に確認を行うこと。(40分)

## 【実務経験】

豊下 祥史(歯科医師)、川西 克弥(歯科医師)、高田 紗理(歯科医師)

## 【実務経験を活かした教育内容】

( 2026年度・歯科衛生士専門学校 )

可撤性補綴学は、欠損歯列を有する患者に対し顎口腔系の形態と機能回復を通じて全身機能の維持や回復に寄与できる歯科医療科目のひとつである。学理に則った教育内容と幅広い知識・技術に基づいた臨床実務を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。